

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	<p>⑫【自分と地域社会】</p> <p>自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。</p>	総合的な学習の時間
<p><b>【題材】</b> 被災地小学校との交流と津波伝承館見学</p> <p><b>【対象】</b> 釜石市立鶴住居小学校児童・本校6学年児童</p> <p><b>【実践の概要】</b></p> <p>1 鶴住居小学校との交流                      (1) さくら基金贈呈 (桜の苗木)                      (2) 各校の学校紹介</p> <p>2 大船渡津波伝承館見学                      (1) 講話 (津波襲来時の映像や写真を交えた解説と体験談)                      (2) 被災前後の写真閲覧 (パネル展示)</p> <p>3 被災地学習のまとめ・報告                      (1) グループ新聞作り                      (2) 全校児童への報告 (全校朝会)</p> <p><b>【実践の詳細】</b></p> <p>1 鶴住居小学校との交流                      全校の代表として、6学年児童全員で釜石市立鶴住居小学校を訪問し交流を図った。                      復興支援として、本校の全校児童による「さくら基金」を募り、さくらの苗木10本分の基金を届けた。鶴住居小学校校庭に桜の苗木を植えてもらい、北上市のシンボルともいえる桜の木を通して、本校とのつながりを身近に感じてもらうねらいである。                      また、お互いの学校紹介を行い、児童相互の交流や歌等を通して直接ふれあうことができた。</p> <p>2 大船渡津波体験館見学                      被災地の現状を学ぶために、大船渡津波伝承館を見学した。「語り継ぐ東日本大震災と津波」と題して、津波襲来時の映像や津波前後の写真を交えながら、館長の齊藤さんから講話をいただいた。実際の映像や体験談を聞くことで、津波の怖さや被害の大きさ、地震が起きたときの対処方法等を身近な問題として捉えることができた。</p> <p>3 被災地学習のまとめ・報告                      鶴住居小学校との交流や大船渡津波伝承館見学において自分の目で確かめ学んだことを、グループ毎に新聞にまとめた。また、全校朝会で写真や新聞を交えながら、全校児童に報告した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>〈さくら基金の贈呈式〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈本校児童による長縄跳び〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈鶴住居小学校児童による虎舞〉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>〈齊藤さんによる講話と当時の被災映像〉</p> </div> </div>		

【授業の展開】

1 ねらい

- (1) 東日本大震災で被災した現状を知り、自分たちに何ができるかを考え、全校や地域に発信していく。
- (2) 被災地の現状に触れ、思いやりの心や共に支え合い生きていこうとする態度を育てる。

2 実施時期と計画 (総合的な学習「わたしたちにできること～被災地のために～」全17時間)

	単元内容	学習活動	期日・時間
第1次 事前学習	東日本大震災を振り返り、現地で学びたいことや調べたいことを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いわての復興教育副読本」を基に、ビデオ映像を交えて被災地の現状を知る。</li> <li>・いわての復興に関する自分たちのこれまでの活動を振り返る。</li> <li>・被災後の仕事内容の変化、仮設暮らしの人々の過ごし方や苦勞を資料集やパソコンなどで調べる。</li> <li>・現地で学びたいことや、調べたいことを考える。</li> <li>・自分たちができそうなことを考える。</li> <li>・鶴住居小学校との交流内容を考える。</li> </ul>	10月 (6時間)
第2次 現地学習	被災地を見学し、現地の人々の思いや現状を学び取ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大船渡津波伝承館を訪問し、現地の人から話を聞く。また、鶴住居小学校の児童と交流する。</li> <li>・自分の目で確かめ学ぶ。</li> </ul>	11月 (6時間)
第3次 事後学習	現地学習で学んだことをまとめて、みんなに伝えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学から学んだことをまとめる。</li> <li>・自分たちにできることを考える。</li> <li>・現地学習の報告。(児童朝会等)</li> </ul>	12月 (5時間)



〈全校児童へ被災地学習の報告〉

【児童の感想】

- 鶴住居小学校のみなさんに、桜の苗木10本分の基金を贈呈しました。代表の方は、笑顔で基金を受け取ってくださいました。この活動をきっかけに、黒沢尻西小学校と鶴住居小学校が、遠くても心は近くに感じられればいいと思いました。
- 津波伝承館で初めて知ったことは、津波の恐ろしさです。高台に避難した人が、家や人・車などが津波に流されるのを見てなげく声を聞き、とても胸が苦しくなりました。このような出来事は、一生忘れないことだと思います。この先、このような大震災が起きなければいいと思います。
- これから私達にできることを考えました。1つ目は、3月11日の震災の出来事を忘れないことです。千年に一度と言われている大震災を経験した私達が、これからも震災のことを伝えていかなければならないからです。2つ目は、被災地がいち早く復興できるための募金やボランティア活動など、私達にできることをやってみようと思いました。そして、震災の被害を受けた人達が、もとの暮らしができるようになればいいと思いました。
- あの震災から3年後、被災地はまだ復興していない所もあります。しかし、被災地の人達は、あの悲しみを心の奥にしまい、私達に笑顔を見せてくれました。それに答えられるように、私達はできる限り尽くしていきたいと思いました。



〈被災地に思いを寄せたグループ新聞〉

【まとめ】

- ・実際に児童が被災地を訪問することで、東日本大震災で起きた津波の恐ろしさを改めて感じ取ることができた。また、自身の現状を見直し、自分たちにできることは何か、今後どうすればいいかを考えるきっかけとなった。
- ・より身近な問題として復興の大切さを感じとり、「生命を尊重する心」「他人に対する思いやりや助け合いの心」「災害から命を守るために必要な能力」について理解し考えることができた。